
第2節 三重県名勝「宮川堤」の本質的価値

宮川堤は、下の渡しに桜の木が多く植えられ「桜の渡し」と呼ばれたように、古くから桜のあることで知られていた。近代になり、官民一体の保存、植樹活動により、宮川堤は桜の名所として広く知られるようになった。先人の努力により、育まれ、受け継がれてきた桜並木の存在こそが宮川堤の本質的価値と言える。

一方で、宮川堤は多くの水害の歴史を物語ってくれる。今に残る過去の治水の痕跡は、近世の土木遺産としても重要である。

治水のための堤防と市民憩いの場としての桜並木、それらが一体として保存されているのが宮川堤である。